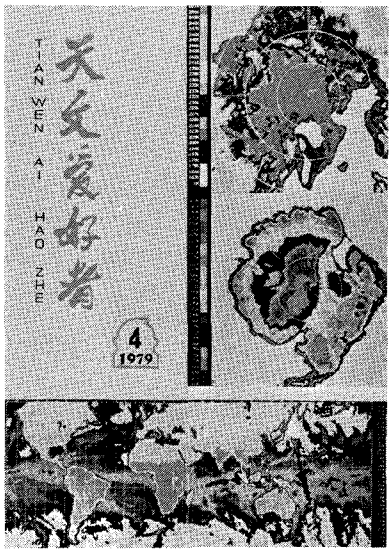
中国大陸の隕石

島 誠*・矢吹貞代*

隕石の研究は，他の分野の近代科学と同じように，西欧を中心に発展してきたので，東洋での隕石研究は，遅れをとっているようにみえる．世界的に有名な隕石カタログである大英博物館発行の本（Catologue of Meteorites 1966）などでも，東洋の隕石については，大変に貧弱な記録しかない．そこで筆者は，東洋地域の隕石の分布や記録を集めて，順次発表してきた．ここで示す一覧表ができるまでには，沢山の文献やら，通信などのお世話になってきた．特に，北京天文館の卞徳培（Bian Depei）先生や，山東大学の王承瑞（Wang Chengrui）教授らの助力があって，でき上った．筆者らが，日本で手に入る資料を集めて，かりに作った一覧表（島ら，理研報告，**55** 78（1979））に対して，中国本土だけで入手できる各地方の古い県誌などの中から記録をみいだし，筆者の古い表を補充して下さったり，また写真（A）に示すような中国の天文月報とも言える天文愛好者という月刊誌などでも手配して下さり，より完全な表にと助力して頂けた．天文愛好者は，北京で発行されて，0.17 元で発売しており，時々，隕石の記載もあるので，便利な本である．

ともあれ，世界的にみて，隕石落下の記録が，中国大陸ほどに完備した地域は，西欧を含めて他の地域にはなく，特に古代の記録などは，極めて貴重な資料であることが判る．また，今後，隕石を回収できる可能性が，大変に高い大陸であることも判ってきた．

隕石が地球の上に落下することは，地球ができた時から現在まで，連続的に行われてきた現象であろう．しかし古い地質年代の記録は，隕石火口で示される例などが僅かにみられるものの，極めて稀である．その後，地球の上に人類が現われ，隕石落下の口伝や語りつがれてきた物語りも殆どない．記録として，最も確実なものは，文字に記されたものである．中国大陸の場合には，種々の変遷があったにせよ，文字の発明は古代に行われ，また農耕文化を維持するために必要な暦の編成も早くから行われてきた．暦をつくるためには，天文観察が注意深く行われており，流星現象などを含めて，隕石の落下現象も観察されてきた．従って，落下の記録が，正確な日付と共に，記録として残されてきたことになる．これらの記録を落下年代順に並べて，一覧表を作った．ただし，



写真（A） 天文愛好者の表紙（中国の天文月報に相当する）

隕石落下の記録があるからと言っても，現在，その隕石が回収されている例が，古い時代には大変に少ない．近世になってからは，落下の記録と共に隕石も回収された例が多いので，表を分けて作った．第Ⅰ表は，1899 年までの記録を，第Ⅱ表は，1900 年代の記録，第Ⅲ表は，現存している隕石であるが，落下年月日などの記録が不備のものとに分けて表示した．第Ⅳ表は，外蒙古地区だけの隕石を集めたもので，全て現存する隕石である．

第Ⅰ表から，第Ⅳ表までに共通する表示として，漢字や地名の改定が近世にあっても，旧漢字や旧地名で記録されていた隕石は，古い記録のままの漢字で表示した．これは，一般に，隕石の名称を付ける時，国際的な習慣として，落下または発見された地点の名前をそのまま使用するという原則に従っている（島：隕石の科学，玉川出版 1977）．音標についても，発音標の表示法が，過去に何回か変ったが，落下当時に呼称していた発音標に近い様式を，立教大学の阮建治教授の指示で使用した．しかし，最近落下した吉林隕石の場合のように，当初は Kirin と記録されてたが，後に Jilin と書く報告もでてきて，現在の中国においても混乱している例もある．中国の隕石の写真は，少なく，写真（B）に吉林隕石など数個をまとめて示す．右下の信阳隕石の場合，二つの個体が，一つの面で，完全に接合できる珍らしい例を示す．

次いで，隕石落下年月日の項目の所で，月と日付のつ

* 理化学研究所 Makoto Shima and Sadayo Yabuki: Meteorites on the China continent

第I表　中国の隕石（1899年までのもの）

年	月	日	隕石名	音標	備考	
B.C. 1809.	—	—	帝　　奚(桀)	——	——	Ⓢ
644.	2.	22.	宋	Song	河南，商丘	
368.	—	—	櫟　　陽	Yueyang	陝西，高陵	Ⓢ
211.	—	—	東　　郡	Dongjin	河南，濮陽	
192.	—	—	綿　　諸	Mingju	四川，成都	
89.	3.	9.	雍	Yong	陝西，鳳翔	
38.	2.	18.	梁　　國	Liangguo	河南，商丘	
29.	2.	29.	藁	Gao	河北	
22.	4.	12.	白　　馬	Baima	河南	Ⓢ
19.	6.	16.	杜　　衍	Duyan	陝西，華県	
12.	4.	25.*	都　　関	Duguan	——	
10.	—	—	都　　関	Duguan	——	
9.	4.	21.*	都　　関	Duguan	——	
6.	3.	3.	北　　地	Beidi	甘粛，庆陽	Ⓢ
6.	10.	27.	虞	Yu	山西，平陸	
A.D. 2.	6.	29.	鉅　　鹿	Julu	河北	
23.	5.	9.*	——	——	——	
79.	7.	13.	潁　　陰	Yingyin	河南	
106.	10.	15.	陳　　留	Chenliu	河南	
164.	4.	1.	鄠	Hu	陝西	
235.	2.	6.*	寿　　光	Shouguang	安徽	
238.	8.	4.	襄　　平	Xiangbei	江蘇	
284.	6.	24.	河　　陽	Hoyang	山東	
285.	2.	22.*	温	Wen	浙江	
319. or 332.			——	——	——	
334.	2.	20.*	涼　　州	Liangzhou	甘粛，武威	
357.	2.	21.	槐　　里	Huaili	陝西	
459.	7.	6.	陵　　城	Lingcheng	広西	
500.	—	—	太　　湖	Taiku	江蘇	
565.	4.	16.*	殿	Dian	山西	
587.	6.	16.	滏　　陽	Fuyang	河北	Ⓢ
588.	—	—	東　　冶	Tonyey	福建	
597.	—	—	武　　安	Wuan	河北	
616.	5.	28.	呉　　郡	Wujun	江蘇，蘇州	
617.	6.	10.	江　　都	Jiangdu	江蘇	
644.	11.	5.*	文　　水	Wenshui	山西，呂梁	
653.	9.	17.*	馮　　翊	Fengyi	陝西，大荔	Ⓢ
764.	7.	4.	汾　　州	Fenzhou	山西	
783.	9.	16.	京　　師	Jingshi	陝西，西安	
811.	—	—	兗　　渾	Yanhun	山東	
1019.	3.	9.	沈　　丘	Shenqin	安徽	
1064.	—	—	宣　　興	Yixing	江蘇	
1159.	11.	12.*	蕪　　湖	Wuhu	安徽	
1189.	3.	30.	宝　　応	Baoying	江蘇	
1235.	春		金　　堂	Jintang	河北，懐安	
1298.	7.	10.*	崇　　仁	Chongren	江西，撫州	
1350.	2.	7.*	棣　　州	Dizhou	山東	
1350.	12.	14.	耀　　州	Yawzhou	陝西	
1356.	10.	24.	大　　名	Daming	河北	
1359.	5.	24.	建　　寧	Jianning	福建	
1363.	7.	23.	臨　　朐	Llnqu	山東	
1369.	—	—	陝　　西	Shuxi	寧夏，固原	
1393.	7.	24.	蒲　　圻	Puqi	湖北	
1415.	10.	22.	嘉　　定	Jiading	江蘇	
1428.	2.	15.*	邳　　州	Peichou	江蘇	

第 I 表 (つづき)

年 月 日	隕石名	音標	備考
A.D. 1470. 7. 23.	陽信	Yangxin	山東
1478. 7. 20.	臨晉	Linjin	山西
1487. 5. 26.	束鹿	Jinglu	河北
1490. 3. 21.*	慶陽	Qingyang	甘粛
1491. 11. 15.	光山	Guangshan	河南
1497. 2. 25.	泰順	Taishun	浙江
1499. 6. 27.	朔州	Shuochou	山西
1501. 1. 19.*	馬邑	Mayi	山西
1506. 9. 2.	即墨	Jimo	山東
1513. 6. 3.*	德慶	Deqing	広東
1514. 6. 9.	滨州	Binchou	山東
1518. 2. 28.	鄰水	Linshu	四川
1518. 11. 3.*	雄県	Xiongxian	河北
1520. 7. 11.	台州	Taizhou	浙江
1531. 8. 12.*	南宮	Nangong	河北
1533. 5. 24.*	祁	Qi	河北, 安國
1540. 6. 14.	棗強	Zaoqiang	河北
1541. 9. 20.*	興寧	Xingning	安東, 資興
1553. 3. 25.	平越	Pingyue	貴州, 福泉
1560. 4. 25.*	松江	Songchiang	江蘇, 松江
1560. — —	華亭	Huating	甘粛
1563. 4. 17.	懐慶	Huaiqing	河南, 沁陽
1565. 4. 30.*	大足	Dazu	四川
1568. 3. 29.*	新城	Xincheng	河北
1568. 7. 24.*	靜樂	Jingyue	山西
1570. 1. 12.	蒙城	Mengcheng	安徽
1574. 2. 21.*	寿陽	Shouyang	山西
1575. 7. 3.	景州	Jingchou	河北
1577. 10. 11.*	万載 (1)	Wandai (1)	江西
1577. or 1578	徐州	Xuzhou	江蘇
1579. — —	滎河	Yinghe	山西
1581. 8. 29.*	揭陽	Jieyang	広東
1588. 10. 28.*	岢嵐	Kelan	山西
1589. 10. 22.	不載 (II)	Wandai (II)	江西
1591. 6. 17.	遵化	Zumhua	河北
1594. 8. 1.	昭化	Zhaohua	四川
1598. — —	河東	Hedong	山西
1609. 8. 29.*	寧波 (1)	Ningbo (1)	浙江
1613. 2. 4.	広安	Guangan	四川
1613. 9. 21.	武城	Wucheng	山東
1616. 2. 22.	易州	Yichou	河北
1618. 11. 22.	南京	Nanjing	江蘇
1622. 冬	荆門	Jingmen	湖北
1629. 2. 23.*	蕭	Xiao	江蘇
1636. 10. 4.	太康	Taikang	河南
1648. 7. 20.*	貴池	Guichi	安徽
1651. 6. 18.	北京	Beijing	河北
1653. 4. 27.*	盧州	Luchou	安徽, 合肥
1657. 6. 16.	湖陽	Chaoyang	広東
1670. 11. 7.	武清	Wuqing	河北
1674. 6. 4.*	寧遠	Ningyuan	甘粛
1676. 6. 19.	青浦	Qingpu	江蘇
1681. 3. 19.	海豊	Haifeng	広東
1683. 7. 14.	貴溪	Guixi	江西
1685. 2. 8.	饒平	Raoping	広東

第I表（つづき）

年月日	隕石名	音標	備考
A.D. 1707. 11. 30.	安東	Andong	遼寧
1709. 11. 10.	淮陰	Huaiyin	江蘇
1730. 2. 17.*	府谷	Fugu	陝西
1748. 5. 27.*	東台（I）	Dongtai（I）	江蘇
1749. 12. 8.	宿州	Suzhou	安徽
1758. 12. 1.*	長陽（I）	Changyang（I）	湖北
1770. 3. 27.*	樂安	Yuean	江西
1775. 8. 26.*	鉅	Ju	山東
1782. 9. 7.*	滕	Teng	山東　Ⓢ
1793. 6. 7.	分宜	Fenyi	江西
1818. 12. 22.	長陽（II）	Changyang（II）	湖北
1827. 8. 30.	——	Kulischu	——
1832. 4. 15.	龍門	Longmen	広東
1851. 5. 15.	榮昌	Rongchang	四川
1861. 4. 10.	沐河	Muhe	江蘇，宿遷　Ⓢ
1861. 9. 4.	光化（I）	Guanghua（I）	湖北
1866. 5. 1.	潁上	Yingshang	安徽
1873. 7. 8.	漳	Zhang	甘粛
1873. 11. 20.*	羅田	Luotian	湖北
1878. 10. 26.*	長寧	Chengning	江西
1880. 5. 9.*	化州	Huazhou	広東
1894. 2. 27.	皐蘭	Gaolan	甘粛
1898. 7. 14.	丹陽	Danyang	江蘇
1898. 8. 7.*	泰州	Taizhou	江蘇

Ⓢ：隕石雨

いていない隕石は，おもに地表で発見された隕石であり，隕石落下を目撃したものではないことを示す．*印のある隕石は，古い記録の暦を，現在の西暦に換算する時，不明瞭な日付にならざるを得ない例で表示の月日に約1ケ月を加えた期間の間に隕石が落下したことを示す．また，異なった年月日に，同一地点で隕石が落下した記録がある場合には，隕石名のあとに（I）（II）を入れて区別した．備考の項目にⓈ印のある隕石は，多数の個体が同時に落下した記録のあるもので，隕石雨と考えられる試料である．各省別の名前は，現在の中華人民共和国の行政区の名称で表示した．

最も古い隕石落下の記録は，紀元前1809年の夏時代に落下したもので，竹書紀年に，五星錯行，夜行隕星如雨とあり，隕石雨であったらしい．次いで紀元前644年の春秋，東周時代に落下記録のある宋隕石の記録となる．この二つの隕石の年代の中間に，殷の時代とされている古墳から，鉄隕石製と考えられる鉄器の出土がある．河北省藁城県台西村出土の鉄刃銅鉞で，ニッケルが1.76%も含まれている．これが鉄隕石製とすると，丁度，上にのべた二つの隕石落下の記録の中間に当ることになる．第I表に記されている隕石は，その種類が，ほとんど不明である．特別に鉄隕石が落下したと考えられる例は，戦国時代の楚王が，二振りの刀を鉄隕石で作ったと言う

写真（B）　中国の隕石

伝説にみられる程度である．記録の中では，多分，石質隕石であったと思われる記載が多い．石質隕石は，地表の岩石に似たもので，鉄金属だけでできている鉄隕石とは大変に異なっている．

第II表 中国の隕石（1900 年以後のもの）

年 月 日	隕 石 名	音 標	隕石の種類	備 考
1914. — —	巴 林 旗	Palinchi	iron	遼寧省
1916. 3. 23.	任 丘	Renqiu	chondrite	河北省
1917. — —	沛	Pei	iron	江蘇省沛県
1917. 7. 11.	導 河	Taoho	chondrite	甘粛省臨夏
1920. 9. —	烏 珠 穆 沁	Wuchumuchin	iron	内蒙古
1920. 8. 13.	山 東	Shantung	stony-iron	山東省
1924. 10. 5.	豊	Feng	chondrite	江蘇省 Ⓢ
1928. 4. 14.	太 倉	Taitsang	chondrite	江蘇省
1931. 6. 25.	武 陟	Wuzhi	chondrite	河南省
1931. 8. 27.	余 干	Yugan	chondrite	江西省 Ⓢ
1932. — —	光 化（II）	Guanghua（II）	iron	湖北省
1933. 10. 23.	当 塗	Tangtu	chondrite	安徽省
1944. 3. 26.	——	Tulongdzong	chondrite	西蔵
1947. — —	——	Kososho	——	——
1942. 4. 1.	如 皋	Rugao	chondrite	江蘇省
1952. — —	——	Minfanzhun	——	——
1954. 4. 12.	陽 江	Yanchiang	chondrite	広東省
1956. — —	河 池	Hotsu	——	広西省
1956. 6. 26.	菏 泽	Heze	chondrite	山東省 Ⓢ
1956. — —	田 林	Tianlin	iron	広西省
1957. — —	商 都	Shangdu	iron	内蒙古
1958. — —	南 丹	Nandan	iron	広西省 Ⓢ
1959. — —	凉 城	Liangcheng	iron	内蒙古
1959. 4. —	哈 密	Hami	iron	新疆省
1960. — —	涪 陵	Fuling	iron	四川省
1962. — —	——	——	chondrite	内蒙古
1964. 10. 9.	釗 閣	Jiange	chondrite	四川省
1964. — —	長 興 島	Changxingdao	chondrite	上海市
1964. — —	英 德	Yingde	iron	広東省
1965. — —	广 元	Cuangyuan	iron	四川省
1965. — —	和 靖	Hejing	iron	新疆省
1970. 1. 20.	東 台（II）	Dangtai（II）	chondrite	江蘇省
1971. 5. 2.	安 龙	Anlung	chondrite	貴州省
1971. 5. 25.	双 阳	Shuangyang	chondrite	吉林省 Ⓢ
1971. — —	邕 宁	Yongning	iron	広西省
1974. 12. 26.	恩 施	Enshi	chondrite	湖北省 Ⓢ
1975. 10. 4.	宁 波	Ningbo	iron	浙江省
1975. — —	新 沂	Xinyi	chondrite	江蘇省
1976. 3. 8.	吉 林	Kirin	chondrite	吉林省 Ⓢ
1976. 5. 15.	莒 南	Junan	chondrite	山東省
1976. 7. 9.	敦 化	Dunhua	chondrite	吉林省
1976. 8. 18.	庄 河	Zhuanghe	chondrite	辽宁省
1976. 9. 13.	清 鎮	Qingzhen	chondrite	貴州省
1977. 3. 11.	常 德	Changde	chondrite	湖南省 Ⓢ
1977. 10. 20.	亳	Bo	chondrite	安徽省
1977. 12. 1.	信 阳	Xinyang	chondrite	河南省
1978. 9. 10.	漂 水	Lishu	chondrite	江蘇省

Ⓢ: 隕石雨

都関隕石については，落下時の異なる記録が三つあり，同一の隕石落下を異なった人によって多分記録され，誤りが生じたものとも考えられるが，年代順に書くと，第I表のようになる．

第II表は，1900 年以後の隕石の記録で，この時代にはいると，隕石の種類なども記載されており，鉄，石鉄および石質隕石の別も明らかである．石鉄隕石とは，鉄隕石と，石質隕石が半分づつ混ったもので，珍らしい種類

第Ⅲ表 中国の隕石（現存するもので，年，月，日，不確かなもの）

隕石名	音標	隕石の種類	備考
夾皮沟	Chiapikou	chondrite	吉林省
建始	Jianshi	iron	湖北省
鈡祥	Zhongxiang	iron	湖北省
黄陵	Huanglu	iron	湖北省
貴溪	Guixi	iron	江西省
隆昌	Longchang	iron	四川省
樂山	Leshan	iron	四川省
麻尾	Mawei	iron	貴州省
福建	Fuchien	iron	福建省
都安	Duan	iron	広西省
新疆	Xinjian	iron	新疆省
豊鎮	Fengzhen	iron	内蒙古

第Ⅳ表 外蒙古の隕石

No.	年月日	隕石名	緯度(N)	経度(E)	隕石種	重量(kg)	備考
1	19 世紀中期	Adzhi-Bogdo	44°52′	92°25′	iron	1260	
2	1913 — —	Chinga	51°	94°	iron	～80	Ni-rich Ataxite
3	1933 9 —	Noyan-Bogdo	42°55′	102°28′	ch	0.22	落下，L
4	1935 (or 1917?)	Armanty	47°	88°	iron	～20000	Oct
5	1949 10月末	Adzhi-Bogdo	44°50′	95°10′	ch	0.91	polymict breccia
6	1952 7 10	Khenteisky	48°10′	109°30′	stone	0.4021	
7	1954 — —	Manlai	44°20′	106°30′	iron	760	Ni-rich Ataxite
8	1958 以前	Matad	47°36′	114°45′	iron	0.1895	

注： ch=chondrite； L=olivine-hypersthene chondrite

の隕石の一種である．第Ⅱ表は，地名やその位置についても，第Ⅰ表のような不確実さはほとんどなくなっている．しかし，巴林旗隕石と，烏珠穆沁隕石とは，同一の鉄隕石であるとする考え方があったり，Kososho 隕石についての記録の不完全さなどもある．

第Ⅲ表は，現存する隕石で，記録が不明のものである．しかし，隆昌隕石が，大体 1716 年に落下したらしいとか，建始隕石が，19 世紀末に落下したという話もある．第Ⅲ表の隕石は，第Ⅰ，Ⅱ表中に表示されている隕石と重複している場合が多いと考えられる．例えば，第Ⅲ表の貴溪隕石と，第Ⅰ表の貴溪隕石とは，同一の隕石である可能性が高い．また第Ⅲ表の鈡祥隕石と，第Ⅰ表の荊門隕石は，距離の近い分布で，同一隕石らしい．四川省の隕石では，第Ⅲ表の隆昌隕石の位置の近くに，第Ⅰ表の大足隕石および榮昌隕石の記録がある．これらの三つの隕石の関係では，内二者は同一隕石であるかも知れない．次いで，第Ⅰ表の昭化隕石が鉄隕石であれば，すぐ近くにある第Ⅲ表の広元隕石と同じものとも考えられる．

次に，第Ⅰ表と第Ⅱ表を用いて，隕石落下の年代を横軸に，隕石数をたて軸にして作図すると，第1図になる．この図には，最古の帝桀隕石は除いてあり，また，朝鮮半島と，日本列島の隕石落下の例（島ら，理研報告 **55** 173 (1979)）を加えて示してある．図の横軸下方に示した中国大陸などの古代の国名は，歴史学上に記録されたものの内，大略の名前を図示してある．この図からみても，中国大陸の隕石の記録は，日本列島などに比べて，大変に古いことが判る．日本列島では，朝鮮半島に比べても，約600年くらい新らしい時代から記録がはじまった．落下隕石数をみると，中国大陸の場合，19 世紀を除くと，前漢時代の紀元前1世紀の頃と，紀元 15 世紀から 16 世紀頃の明の時代に比較的多数の記録が残っている．この二つの時代における他の天文現象との照合は行っていないが，特長のある時期と考えられる．有名な天体異変現象の一つである超新星の爆発が，中国では古くから観測され記録されて残っている．その現象の特に有力な例を，図1の上方に★印で示すが，超新星爆発と隕石落下数の増大との関連もなさそうである．19 世紀に入ってから，隕石落下数が急に増えるのは，近代化による情報の得やすさや，宇宙に関する関心の度合いなどが増加したためによるものと考えている．

図2は，落下または発見した隕石を，中国大陸の地図上に分布させたものである．隕石の種類の明らかなものは，図に示すような記号で分類して表示し，単に記録だけが存在する隕石は，白丸で地点だけを表示してある．

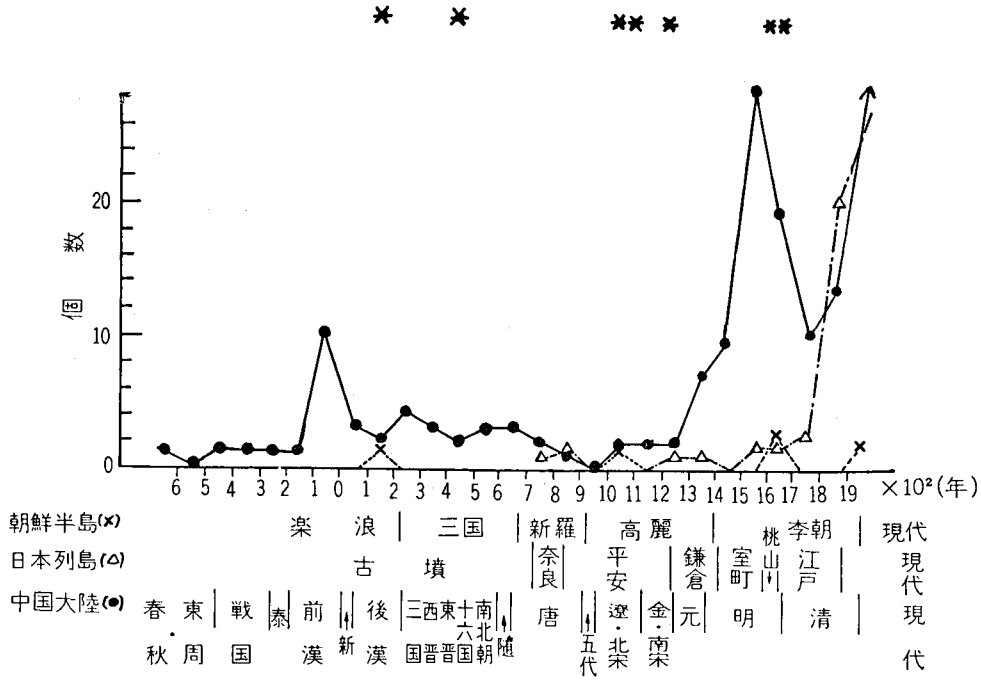


図 1　年代別にみた隕石の記録　＊印は超新星爆発観測の年

中国大陸内部を分け，各省などを，外交時報社刊（昭和46年）の中国大陸省別地図によって分類してみると，江蘇省に落下した隕石が，最も数が多いことが判る．次いで，河北省，山東省，山西省など，いわゆる華北地方に多くなっている．華中地方の湖北省，安徽省，江西省などが，これに続いている．これらに比べて，東北地方や辺境地方および西南地方には少ないことが判る．特に黒龍江省，青海省および雲南省では，隕石に関する報告が皆無である．しかし，同じ辺境地方でも，甘粛省や内蒙古，西南地方でも四川省や貴州省には，隕石落下の記録が多くある．

海岸に沿った華南地方と呼ばれる広東省，広西省および福建省にも，比較的隕石落下の記録が多い．

一般的にみて，平野地帯や河川の流域および海岸地帯に分布している傾向がわかる．また，古い時代から開けた文化地帯の洛陽から西安を経て，西域に至る地方，すなわち，古代の交通路に沿った所にも，点々と隕石の落下が連続的に認められる．これらの現象は，古代から，人類が生活の場として住んでおり，文字を有していて，記録を残したためにみられる傾向であろう．

隕石落下の記録数と，人口密度との関連をみるために，外交時報社刊の中国大陸省別地図に記載されている数字を利用してみる．江蘇省の人口密度（人口/km²）は，365 で隕石落下数が最も多く，次いで河北省，山東省などの人口密度は，184，322 となっており，隕石数も多

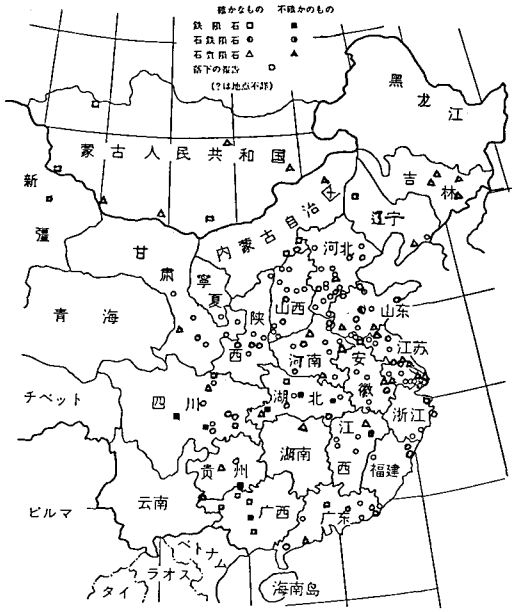


図 2　中国大陸の隕石分布図

い．このことは，落下を目撃する観察者が多いためと考えられる．しかし，隕石の落下が地表に対して，略均等にあるとすると，人口密度ばかりでなく，各省の面積の大小にも関連することになる．江蘇省の 107 百 km² に比べ，湖南省の 205 百 km² は，面積が約 2 倍にもなる

が，隕石の記録が湖南省には，僅かに1個しかないというようなこともあって，必ずしも，面積に比例しているとも限らない．しかし，湖南省は，人口密度も可成り高い地域であり，今後，もっと沢山の記録がでてくる所であろう．一方，面積が広大で，人口密度の極めて低い外蒙古，新疆，寧夏およびチベットなどの地方では，隕石落下を目撃する機会は少ないと考えられる．しかし，広大な面積からみて，目撃されずに過去に落下し，未発見のまま回収されていない隕石は，沢山あると予想できる．

第I表と第II表の中で，落下年月日の判明しているものだけを集め，月別に落下数を分けてみると，3月から7月にかけて落下個数が増え，また，10月を中心に，その前後の月にかけて，数が増えている．春季と秋季に隕石落下数が増える現象は，世界的に認められる傾向で，中国大陸の場合も，同様な傾向となる．この原因として，人間が野外活動，特に農耕時期に，屋外で活動する季節なので，隕石落下現象を観察する機会も多くなると考えている研究者もある．また，特別な天文現象との関連性を議論する研究などもあるが，現在，まだ原因はよく判っていない．次に，第II表から，隕石の種類と個数との関係を考えてみると，落下を目撃した隕石の場合，総数が27個で，そのうち，鉄隕石は，僅かに1個で，25個が石質隕石である．また，落下を目撃されずに地表で発見された隕石20個の場合，石質隕石は，僅かに4個である．これに比べて，鉄隕石は14個もある．このような石質隕石と鉄隕石の数の比較は，世界の各地の隕石についても，大体同じような傾向にあって，落下目撃の隕石の場合には，断然石質隕石の数が多い．隕石落下を目撃せずに，偶然，地表で発見される隕石の場合には，石質隕石に比べ，鉄隕石が多くなる．これは，地表の土壌や岩石に混って，鉄の塊りがあると，発見され易く，石質隕石は，普通の岩石のような形態のため，見分けることが困難であるためと考えられる．落下目撃隕石に石質隕石が多いという事実は，人類が，宇宙空間の物質（星などを含めた）の平均的な化学組成などを推定するときに引用される根拠の一つになっている．すなわち，化学元素の宇宙における存在比を推定するとき，代表的または平均的な石質隕石の分析値を用いて定められている．また，地球全体の化学組成を検討するときに，地球の芯までの試料は入手できないので，ある種の石質隕石をもって，その代表と考えることもあった．これらのことは，多分宇宙空間（地球などを含め）には，鉄隕石よりも石質隕石のような物質が沢山あるという推定に役立つ隕石落下現象と言える．

中国大陸の隕石では，石質隕石の一種である炭素質隕石と，エイコンドライトの落下または発見の記録がないという特長がある．炭素質隕石とは，有機物や含水鉱物などを含んだ石質隕石で，隕石の原料物質とか，太陽系の起源物質であるとか，または，地球上の生物の源であるとか言われている興味深い隕石の種類である．エイコンドライトと言われるものは，一般に石質隕石に入っているコンドルールという丸い粒状の構造物がみられないもので，外観も組織も殆んど地球上の岩石と同様な隕石である．稀れな隕石で，回収された数も世界的に少ない．

中国大陸では，石鉄隕石が1個（山東隕石）あり，落下が目撃されたもので，この隕石は，世界でも珍らしい例となっている．隕石とはやや異なるが，宇宙空間物質の一つと考えられているテクタイト（島：星の誕生と宇宙の塵，玉川出版，1978）の発見が，中国大陸の南端部分の海南島付近で報告されているが，今回は省略した．

おわりに，1000万km^2に及ぶ広大な面積，人口約10億といわれている中国大陸と，面積37万km^2および人口約1億の日本列島との比較から，隕石分布を考えてみよう．1900年以後に，落下または発見された例では，前者が46個，日本では約18個となる．日本列島と同じような頻度で分布すると仮定すると，少くとも，日本列島の場合の約10倍の隕石が，中国大陸には分布していることになろう．

また，中国大陸で江蘇省や河北省のような沢山の隕石の記録がある地区と同じように，砂漠や高山地帯に，隕石の記録を期待することはできないにしても，より多くの未回収隕石とか，記録が残されている可能性は高い．平均的な例として，面積200百km^2，人口密度80（人/km^2）の陝西省（隕石の記録9個）をとりあげ，これを中国大陸全体に拡大して考えると，少くとも中国大陸には，現在の約3倍以上の隕石が分布していることになり，回収できる可能性がある．次いで，古い隕石落下の記録があることは，古代の隕石分布の研究に役立つだけでなく，記録された地点付近には，過去に落下した隕石が存在するはずであるから，今後，回収できる可能性もでてくる．

西暦紀元前1800年から，現在に至るまでの約4000年に及ぶ期間について，隕石落下の記録がほぼ連続して見出せる中国大陸は，古代隕石研究の宝庫である．また，このような長期間の正確な記録は，他の大陸などでは見られず，貴重な資料である．同時に，中国大陸では，前述してきたように，より沢山の隕石が回収できる可能性のある所で，今後の探査が待たれる所でもある．

最後に，ここで示した資料は，まだ完全なものではなく，訂正または添加する隕石も多くなると考えられる．読者の指摘を期して，今後も改定を行い度いと考えている．